

ドラッカーの小さな学校 2020年度（受講者報告）

主催者名： ドラッカー学会

日時：2021年2月20日(土)13:30~17:30

開催形式：オンライン開催(Zoom)

内容：

思想としてのマネジメントとその源流.. 井坂康志理事

阪井代表の開講挨拶の後、井坂康志理事による「思想としてのマネジメントとその源流」の講演が行われた。ドラッカーの生い立ち、どういう少年時代であったか、生まれ育った街、両親等について紹介され、知識に対する畏敬の念や人間に対する大切な気持ちといったドラッカー思想を理解する上で必要な事実やキーワードが紹介された。ウィーンという文化の中心の出身で両親は知識人でインテリの家庭であったという事実を初めて知ることが出来た。オーストリア、ドイツでも暮らしてアメリカに渡り、新聞記者でもあったことや、“コンサルティングファーム”という言葉を生み出したのはドラッカーであったという事実も知ることが出来た。

「利益獲得＝正当性＝道徳」という説明については、日本の道徳教育を受けた身からするとドラッカーと日本の繋がりを感じる内容であった。またポジティブフィードバック、強みを活かす。という内容もあり日々のマネジメントに大変参考となる内容であった。

「思想としてのマネジメントとその源流」のテーマ通りで、ドラッカーの思想や多くのお言葉の源流に触れることが出来たのは大変貴重な機会であった。

市民性の創造とマネジメント.. 阪井和男代表理事

“マネジメントはサイエンスなのか”というテーマについてドラッカーの「マネジメントは科学ではない」(『企業とは何か』ドラッカー、1946) やその他の理論家の解釈も含めて紹介がされた。

「ドラッカーの樹」と「鳥の目」・「虫の目」について紹介された。「自分ごと化」つまり自分事として主体的に考えるという話は大変刺激的であった。「概念化＝持論化」・「試行」・「経験」・「省察」を繰り返し学習を通して「人と社会」において「市民性の創造」へ繋がるというお話があり、またマネジメントとサイエンスの関連性にもつなげた説明であり、その答えは出ないが非常に興味深い内容であった。また「省察」とは対話で、ダイアログで、何が本質なのかを問うという話も大変勉強になった。

「ドラッカーがサイエンスをどう見ていたか？」についての紹介の中で「マネジメントに一元的原理はない！」との説明があり一元的原理ではなく思考と行動の為の実践体系であるとの内容で、先のマネジメントと科学・サイエンスとの題目に繋がり、マネジメントサイエンスに対して『マネジメント(エッセンシャル版)』(ドラッカー、2001)での「マネジメントサイエンスが有効たるには、現実のマネジメントの前提、目的、考え、あるいは間違いまで事実として扱わなければならない」とのドラッカーの対マネジメントサイエンスが紹介された。

「マネジメントはサイエンスなのか」というテーマに対して個人的な答えとしてはYES, NOという答えはなく、100%イコールでもノットイコールでも無いように思えた。

転換点にある日本とマネジメント.. 藤島秀記理事

貴重なドラッカーの映像が上映され、ドラッカーが自宅の庭で話すその姿と内容に大変感動した。

「社会の Needsこそ土台」、「Needsに従って変わっていく」「スペシャリストの企業である成功している日本の商社が手本となる」「マネジメントになりたいと思う人は減っている。」「昔は情報伝達の役目があったが今は機械化された」「企業の垣根を越えてアウトソースをコントロールできる人」など多くの金言をドラッカーの講演を見てご自身の言葉を聞くことができる貴重な経験が出来た。

藤島先生の「You cannot manage change, You can only be ahead of it!」のお話の中で、ドラッカーが2020年ないし25年の姿について、誰も分からないという紹介があり、ドラッカーは未来をみれる預言者だと思い、また昨年来のコロナ過によって、全く違う時代、変化の時代、激しい変化であることを改めて認識した。日本における人口構造の変化やコロナによってニューノーマルとなったオンラインビジネスによって社会と人間関係が分断され“マネジメントがどうなるか”という問題提起がされ、またマネジメントの本質は変わらないというお話もきけた。これからもさらに学びたいとの藤島先生ご自身の言葉を聞いて大変感動した。自分自身を振り返り内省する機会を得ることができた。

個人の強みを活かし、組織と社会づくりに貢献するMSC.. 森岡謙仁理事

森岡先生が常に進化・発展されているMSCとの出会い・歴史が紹介され大変興味深かった。ドラッカーの思いとマネジメント思想を体系化したMSCは、上田先生との出会いそして背中を押していただいたという歴史はMSCの重みとなっていると感じた。MSCの進化・発展はまさにマネジメントは変わらなければならないということであると実感した。MSCにはドラッカー、上田先生、森岡先生の思いや熱意が込められているとも感じた。3人の石工の話はマネジメントを理解する上で大変わかりやすく、自分自身も引き継いでいきたい話であると改めて感じた。

最新のMSCにおいて、DX、ソーシャルディスタンス、ニューノーマルが追加されその進化・発展が紹介された。またMSCを4つの知識エリアについての基本構造が紹介され、マネジメントの役割にも関連付けられており、マネジメントの実践として改めて活用しなければならないと感じた。MSCの定義が改めて説明され、MSC(マネジメント・スコアカード)はドラッカーが書いた未完成交響曲の総譜であり、その交響曲は森岡先生の手によって進化・発展をしていることを実感した。この貴重なそして発展し続けるMSCをマネジメントの知識体系・設計・活用・評価・診断ツールとしてさらに日本だけでなく世界的にMSCがその奏でを響かせていくことを願いそして思う。MSCのケーススタディが実施され、このドラッカーの小さな学校での貴重な学習の機会を得た。参加者とのケーススタディは大変刺激的で頭の体操の時間となった。

この「ドラッカーの小さな学校」は、自分自身にとってはとてつもなく深く大きな学び舎であり、その生徒でいられたことは大変有難いと感じる。物流関連企業において管理職を務めている自分自身にとって今回様々な学びがあったことに改めて感謝する。

ご登壇頂いた代表・理事の皆様及び本講座を企画し進行役をされた森岡理事、さらにZoomやケーススタディの準備・進行された皆様に厚く感謝申し上げます。

(有田誠)